

## インフルエンザ

### (1) 昨冬の流行状況

ウイルス分離状況から見た昨冬(2001-2002 シーズン)の流行の特徴としては、全国のウイルス分離報告数は、1999-2000 シーズンとほぼ同じ、2000-2001シーズンの約1.6倍であり、型別の分離比はAソ連型:A香港型:B型が2:2:1であった。

(参考として県内の過去3シーズンのウイルス分離数を下表に示した)

2000-2001シーズンに引き続き、3種類のウイルス(Aソ連型、A香港型およびB型)による混合流行であった。

Aソ連型(A/H1N1)とA香港型(A/H3N2)の遺伝子再集合体で、世界的に拡がりつつある新ウイルス「A/H1N2」が国内(横浜市及び愛知県)で分離された。

B型は抗原性の異なる2つのタイプ(山形系統およびビクトリア系統)に分けられ、近年の流行では山形系統が主流を占めていた。しかし昨冬のB型はビクトリア系統が主流となった。この系統のB型ウイルスは東アジア地域から急激に世界へ拡大しつつある。

ということが挙げられます。このように流行の様相が新たな展開を見せてきており、今冬以降のインフルエンザ流行がどのような動向を示すのかを慎重に監視する必要があります。病原体定点の先生方には検体採取にご協力をお願い致します。

県内のインフルエンザウイルス分離数

シーズン	Aソ連	A香港	B	C	計
1999-2000	185	109	0	3	297
2000-2001	54	33	42	0	129
2001-2002	37	105	21	1	164

### (2) 2002-2003シーズン用ワクチン株

今冬に向けたインフルエンザワクチン株は、

A/ニューカレドニア/20/99 (H1N1)  
A/パナマ/2007/99 (H3N2)  
B/山東/7/97

の3株の混合です。A/ニューカレドニア/20/99(A/NC99)およびA/パナマ/2007/99(A/PAN99)株は昨年から引き続きワクチンに用いられました。上に述べた新ウイルス「A/H1N2」は、ウイルスの赤血球凝集素(HA)がA/NC99株に、ノイラミニダーゼ(NA)がA/PAN99株にそれぞれ類似しており、このワクチンにより対応可能であると考えられます。またB/山東/7/97は上に述べたビクトリア系統のウイルス株であり、全国的にこのウイルスに対する抗体保有率が低いことからワクチン株として採用されました。